



2007年12月27日 No.133

細川律夫国会事務所 Tel 03-3508-7513 Fax 03-3593-7148 E-mail g04091@shugiin.go.jp
南越谷事務所 Tel 048-989-8788 Fax 048-989-5300 HP: <http://minshu.org/hosokawa/>

来年こそ政権奪取の年に

今年は、統一地方選挙、参議院選、埼玉知事選と選挙が続きました。統一選では埼玉県議選での民主大躍進、参議院選では念願の与野党逆転を果たし、大きな成果を得ることができました。来年は90%以上の確率で衆議院の解散・総選挙が行われると言われています。この号では今年一年を振り返りながら、政権交代を目指す年である2008年につなげていきたいと思ひます。

労働法制の責任者として

細川律夫代議士は、昨年の夏以来、民主党の労働法制の責任者として、党内での法案取りまとめや、厚生労働委員会での法案審議に関わってきました。通常国会では政府から6本の法案が出され、民主党としてもそれぞれの法案に対案や修正案を出し、議論を続けてきました。そして、秋の臨時国会では、参議院の与野党逆転を背景に、政府提案の「最低賃金法改正案」と「労働契約法案」の修正可決に成功しました。特に、労働契約法の基本原則の部分に「均衡考慮」、「仕事と生活の調和」という言葉を入れたことは、今後の労使関係に大きな影響を与えられていると言われている。

「次の内閣」法務大臣に就任

9月、小沢代表の再選を機に、細川代議士は、民主党「次の内閣」法務大臣に就任しました。今回、小沢代表の、政権交代の際、実務に耐えられる布陣にするとの方針のもと、細川代議士の弁護士としての経験や人権擁護に向けた活動を踏まえ法務の担当に指名されたところで

す。法務の分野は、国民の安全や人権を守る大切なもので、近く始まる裁判員制度や、冤罪(えんざい)の防止などをテーマに議論を重ねています。



左から江田参議院議長、冤罪被害者の志布志事件被告中山さん、氷見事件柳原さん、細川代議士

議員立法は議員中で最多

国会議員の仕事の指標とも言われる議員立法の筆頭提出者としての提出数は、継続案件も含めると6法案に達し、国会議員の1年間の提出数としては、今年最多になっています。



議員立法を衆議院事務総長に提出

昨年からの継続が、「飲酒・ひき逃げ抑止法案」と「交通基本法案」、通常国会に提出したのが、「死因究明法案」、「法

医科学研究所法案」、「最低賃金法改正案」、そして、臨時国会に提出したのが「労働契約法案」でした。このうち、「飲酒・ひき逃げ」については、民主党案の後を追う形で、政府から類似の法案が出され、また、労働2法については政府案の修正という形でいずれも使命を果たしたため、取下げ、今は3法案が衆議院にかかっています。

そのうち死因究明関連2法案については、相撲部屋のリンチ事件以後、急速に世論が高まりを見せ、わが国の死因究明制度の不備が浮かび上がってきたところです。現在法務委員会の理事(委員長を含め10名)の間で異例の勉強会が開かれ、こういった形で改善を図っていくかという協議が行われています。

選挙で全力投球

春の統一地方選では、地元現職の県議2名がいずれもトップ当選、越谷市議選では民主公認・推薦が1名増の6名当選を果たしました。



7月に行われた参議院選挙の埼玉県選挙区では、民主党が3議席中2議席を勝ち取りま

したが、細川代議士は行田邦子候補の選対本部長として、トップ当選に導きました。

役所にいろいろな要請を

議員活動の一つに、行政などに対する様々な要請行動があります。越谷市長とともに東埼玉道路整備で国交省や財務省へ、タクシー問題で乗務員の人たちと国交省へ、人権擁護法案の件で法務大臣へ、交通事故の問題で、法務省、警察庁へ、など、日常的にいろいろな役所に様々な活動を行っています。

右上の写真は、同僚議員とともに組合国保の予算要望を舩添厚労大臣に行っているところです。



賀詞交歓会にご参加を

恒例の細川律夫新春賀詞交歓会は、下記のとおり行う予定です。一部の方には郵送などでもご案内いたしますが、細川律夫の政治活動を支援して下さる方ならだれでも参加できます。いわゆる「政治資金パーティー」ではありませんから会費も実費のみとなっておりますので、お気軽にご参加ください。

細川律夫新春賀詞交歓会

越谷会場

日時 1月5日(土)午後3時

場所 ベルヴィ・ギャザホール

草加会場

日時 1月11日(金)午後6時30分

場所 草加アコスホール

会費

男性 5,000円 女性 3,000円

細川律夫より一言

選挙の年といふかたは今年も自治体選挙、参院選挙とお世話になりました。とりわけ参院の与野党逆転は今後の国政を大きく変えていきます。国民の声をしっかりと国政に反映すること、これが私達の最大の使命です。来年も引き続き頑張ります。